

筑波大学

哲学・思想学系論集

昭和50年度

筑波大学 哲学・思想学系

昭和五十年度

筑波大学

哲学 · 思想学系論集

刊行にあたって

人間の英知と技術は、その学問と文化の限らない発展を約束しているかに見える。自然を耕すことによつて文化はもたらされる。だが、偏頗な文化の発展は自然の破壊につながる。人間も自然の埒外にあるものではないがゆえに、自然の破壊は人間の破壊にもつながるであろう。——学問と文化の最も深い原点は、このような人間の問題にほかならず、しかも、それは、人間が不斷に念頭にすべき課題でもあるであろう。哲学・思想学系は、かかる課題に基本的かつ総合的にとりくむため、哲学・倫理学・宗教学ないし現代思想学・比較思想学等の歴史的・体系的な究明、及び現代社会・文化の諸状況に対する根源的問いを学問的営為とする研究者の組織として発足した。

ところで、筑波大学は、着々とその内容と陣容を整えつつも、なお草創の期にあり、当学系の日常もまた『兵馬恂悠』の感なきにあらずである。だが、研究と教育は、いうまでもなく、我われにとって基本的使命であり生命である。この基本的な活動に伴う学系紀要の発行は、発足の当初から望まれていたことであつた。紀要の発行については、大学当局も大学全体としての問題として慎重な検討をなしつつあり、やがて、それは、本格的な表現をみることとなるであろう。この間にあって、本年度、当学系はここに「哲学・思想学系論集」としてこの研究誌を発行した。これは、近き将来における学系の研究紀要発行を期しての第一歩を印するものである。広くご批判・ご叱正を賜れば幸いである。

なお、この研究誌の発行は、大学当局よりの多大の補助によって表現された。深く感謝の意を表するものである。

昭和五十一年三月

目次

意識の問題	永井博	1
——『人間と世界』への予備的考察——		
封建倫理と家産制倫理	木全徳	15
——孔門下の二つの可能性——		
比較思想論余論	三枝充	25
荀子における儒家的理念と天の思想的地位	松田弘	33
裴頠「崇有論」考	堀池信夫	43
中体西用論と康有為学	別府淳夫	53
朱・王両思想の比較論的研究 (第四部)	高橋進	63
The Concept of the Subtle Body (linga-sarira) in Brahmanism	川崎信定	71
個体 (I)	野町啓	81
——アリストテレスとトマス——		
心理物理的法則としてのベキ関数の検討	上笹恒	93

筑波大学
哲学・思想学系

教授
井門 富二夫

大島 康正

川郡 保

木全 徳雄

三枝 充恵

高木 勘式

高橋 進

永井 博

助教
池田 美恵

川崎 信定

嶋田 淳

野町 啓

講師
上笹 恒

別府 淳夫

堀池 信夫

研究員
松田 弘

昭和五十一年三月十八日 印刷
昭和五十一年三月二十五日 発行
(非売品)

編集者兼
発行者

筑波大学 哲学・思想学系

〒300-31

茨城県新治郡桜村大字妻木字天久保

印刷者

株式会社 東京プレス

東京都板橋区桜川二丁目二七番一二号

STUDIES

1975

INSTITUTE OF PHILOSOPHY
THE UNIVERSITY OF TSUKUBA

CONTENTS

Hiroshi NAGAI: The Problem of Consciousness —A Preliminary View of “ <i>Man and the World</i> ”—	1
Tokuo KIMATA: Ethics of the Feudal and the Patrimonial Societies —Two Trends in the Confucian Circle—	25
Mitsuyoshi SAIGUSA: Two Remarks on Comparative Philosophy	53
Hiroshi MATSUDA: Hsün Tzu’s (荀子) Idea of Confucianism and the Position of T’ien (天) in his Thought	63
Nobuo HORIIKE: A Study on Pei Wei’s “Zongyou-Lun”	93
Atsuo BEPPU: “Chung-t’i Hsi-yung Lun” and K’ang Yu-wei’s Thought: Focusing on the Period of the 1898 Reform	109
Susumu TAKAHASHI: A Comparative Study on the Philosophies of Chu Hsi (朱熹) and Wang Yang-Ming (王陽明) (Part 4)	129
Shinjō KAWASAKI: The Concept of the Subtle Body (liṅga-śarīra) in Brahmanism	(1)
Akira NOMACHI: Individuum (I) —Aristotle and Thomas Aquinas—	(15)
Hisashi KAMISASA: Power Functions as a Psychophysical Law	(33)

STUDIES

1975

INSTITUTE OF PHILOSOPHY
THE UNIVERSITY OF TSUKUBA